

# 特別寄稿

## 中国・台湾訪問記 再来一杯茶 《2》 (お茶をもう一杯下さい)

### ※台湾「阿里山」に登頂

“くすのき”は“楠”と書くが、出張で台北に居た時に台湾雑誌を見ていたら“くすのき”を“楠”ではなく“樟”と書いていた。更にダンスに入れる虫除けの“しょうのう”は「樟脳」と書き、樟(くすのき)から精製すること。戦前、台湾の阿里山から樟脳が日本に大量に入ってきたそうだ。これを知ったら、阿里山に登ろうと決めた。

なお阿里山は山の名前ではなく、台湾の嘉義(かぎ)県にある山々の総称だそうだ。日本で言えば、北アルプスや奥羽山脈のようなものか？ 阿里山の最高峰は2,663mと鳥海山よりも400m以上高い。この山は麓から登山するよりも、阿里山森林鉄道があるのでこれを利用することにした。この森林鉄道は、伐採した木を運ぶために日本時代に造ったそうだ。

阿里山に行くには、台湾中部の嘉義駅に行かなければならない。ちょうど台湾新幹線が開通して間もないので、台北駅から新幹線で一人旅をすることにした。台湾新幹線は日本式を採用していて、車内は上越新幹線と、また車内販売のワゴンもまったく同じで日本に居る感じだった。

そうこうしている内に嘉義駅に着いた。駅の外に出てびっくり、冷や汗をかいた。嘉義駅始発の森林鉄道の駅が無いばかりか、駅の外は原野だ！「どういうこと？」駅構内には日本語の案内は無い。早速駅の人にたどたどしい中国語で質問して分かった。日本では、秋田駅や高崎駅は在来線と新幹線の駅は同じ駅にある。しかし台湾では在来線の嘉義駅と新幹線の嘉義駅はまったく別の場所にあって、タクシーで30分もかかるとのこと。「別の場所にあるなら駅名を変えてヨ！！マイッタ！！」とつぶやきながらバスがないかと聞いたら、新幹線開通記念の臨時無料バスがあるとのこと。話していたら丁度そのバスが来たのであつたと乗り込んだ。



ようやく着いた在来線の嘉義駅

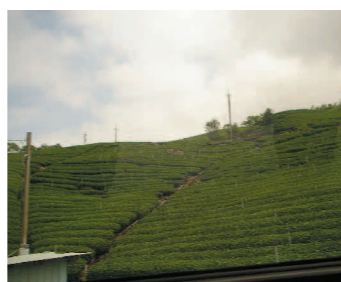


阿里山森林鉄道の車両入線

在来線の嘉義駅に着いたら、早速阿里山森林鉄道の時刻を確認。発車まで時間があったので、駅周辺をぶらぶらして時間を潰し、それから森林鉄道に乗り込んだ。出発時点の汽車から見た風景は南国である。ヤシのような大木の幹に果実が生(な)っていた。別の場所ではお茶畑が見えた。「オーこれが有名な阿里山の高山茶か！」と思った。阿里山のお茶は、ちょっと値段が高いが美味しいので台湾に来たら毎回購入している。森林鉄道は山の中腹駅で何故か1時間ほど停車した。昼食を食べた後の散策中、数人でやっと抱えられるような大木を見つけた。台湾雑誌に書いてあった樹齢2300年の樟だろわか？



嘉義駅で弁当を買い乗車



阿里山のお茶畑

中腹駅からまた汽車に乗ったら、車内で中年の夫婦と相席になった。彼等は「結婚記念日なので、二人で阿里山に登る」とのこと。「日本には行ったことがない」など、中国語の会話勉強がばっちりできた。

嘉義駅から3時間半後、頂上400m弱手前の終点駅に着いた。着いたら周囲は濃い霧で遠望はまったくできない。春になれば桜が咲くようだが夏なので期待ができないし、こんなに深い霧では草花を見る楽しみはできない。

山頂駅付近は麓とまったく異なり南国の風景ではなく、木々は日本の山の景観と変わりなく北国のようだ。夏なのに外は寒く、秋田の夏の平地気候よりも寒い。散策していたら、ワラビを見つけた。春であれば採取できるだろう。駅舎の隣の建物で、歓迎の先住民のダンスをしていた。そのダンスを見てから、近くの食堂で台湾ビールを飲みながら早めの夕食を食べた。



先住民のダンス

翌朝4時頃目が覚め、外を見たら霧がなく展望は良さそうだ。しかし早いので、もう少し寝ることにした。しかしこれが間違いだった。次に目を覚ました時は、昨日の夕方と同じ深い霧で5~10m先が見えない。しかたなく散策を断念して、また森林鉄道に乗って嘉義駅まで行くことにした。嘉義駅から今度は、在来線で台北駅まで帰った。



台湾の友人と夕食の後で

台北に着いてから、台北の会社(日立)の友人と夕食を共にした。いつものように「乾杯・乾杯、再来一瓶啤酒(ビールをもう一本

# 特別寄稿 中国・台湾訪問記 再来一杯茶 《2》

下さい)」と言いながら、台湾ビールと紹興酒で盛り上がった。

### 追記

阿里山に登って知ったのだが、真珠湾攻撃の暗号に使われた「新高山(にいたかやま)に登れ」の新高山、現在名の玉山(ぎょくさん)には阿里山の山頂付近から登山道があることが分かった。新高山は富士山よりも高い山で、いつか登山をしたい山である。

### ※啤酒小姐(ピージョウ・シアオジェ)

「小姐(シアオジェ)」とは女性に付ける敬称で、日本語の「・さん」「娘さん」や「お嬢さん」に当たる。したがって啤酒小姐とは「ビール嬢」のことである。中国のレストランで不思議な光景に出会った。青島(チンタオ)ビールや燕(イエン)ビールなどのビール会社のロゴが書かれたユニフォームを着た女性が、店内にうろうろしているではないか。ウェートレスに料理を注文した後、近くにいた燕啤酒小姐に青島ビールを注文したら注意されてしまった。それで分かったのは、青島ビールを注文する時には青島啤酒小姐に、燕ビールを飲みたい時には燕啤酒小姐に注文しなければいけないシステムだったのだ。啤酒小姐は各ビール販売会社の社員で、レストランの勤定とは別になっていたのである。

もうこのシステムを知ってからは、怖いものはない。青島啤酒小姐に大声で、「再来両瓶青島啤酒(青島ビールをもう2本ください)」や燕啤酒小姐に「給我一瓶燕啤酒(私に燕ビールを1本下さい)」と叫んでいつものように大いに盛り上がる夕食であった。この啤酒小姐システムは台湾では見たことが無く、中国大陸だけのシステムのようなのである。

### ※北京的桃(北京の桃)

酒を飲んだ後は、果物のデザートが一番だ。以前「北京的西瓜」と題する日本映画があった。「北京的西瓜」とは「北京のスイカ」の意味である。

8月に北京を訪れた時の夕食に、いつものように乾杯・乾杯(ガンベイ・ガンベイ)、「再来一瓶啤酒(ビールをもう一瓶下さい)」と言って、随分酔った後ホテルに帰る時であった。ふと見ると道端で桃を売っているお婆さんに気が付いた。お婆さんが売っているその桃は、平柿か饅頭のように平たい形で、日本の桃とまったく違う形だ。ちなみに色は正直不味そうであった。北京在住の人がその桃を買ってくれるとのこと。不味そうだったので「いいよ！」と断ったが、どうしてもとのことで買って頂いた。ホテルに帰ってからその桃を食べたら、外観から想像できない美味しさだった。日本の桃でもこんなに美味しい桃は食べたことがない味だった。翌日早速自分でその平たい桃を買って来て、北京に居る間中桃を食べ続けた。これ以来夏に北京に行く機会があったら、必ず北京的桃を買うようにしている。



北京の桃(形が平たい)

### 追記

北京で見た平たい桃は、図鑑によると蟠桃(ばんとう)と言う品種であることが分かった。この桃は見栄えがしないことと栽培が難しいため、日本では生産があまりされていず市場には出ないようだ。しかし味が非常に良い品種だそうだ。

### ※台湾的芒果(台湾のマンゴー)

台湾の果物だが、台湾は南国なので種類が豊富である。私が勧めたいのは「台湾的芒果(台湾のマンゴー)」だ。このマンゴーは6月が旬で、この時期に台湾出張があるととても嬉しかった。台湾マンゴーとの出会いは、6月の台湾出張の時であった。いつものよ

うに朝、台北事務所に行くと、台湾スタッフから「早安(ザオ・アン/おはよう)」や「吃飯了嗎?(チー・ファンラ・マ?/ご飯食べた?)」と言われる。早安は「おはよう」だから分かるが、「飯を食ったか?」と何故言うのか最初は分からなかった。朝飯を食べて来なかったらご馳走してくれるのかと思ったが、実は違っていた。



台湾のマンゴー

「飯を食ったか?」は、単なる挨拶言葉なのである。日本で言えば、「今日はいい天気ですね?」の挨拶言葉と同じなのだ。朝の出会いに私が「飯を食ったか?」と言われて不思議に思うのは、台湾人にとっては「今日はいい天気ですね?」で、会うのと天気と何の関係があるのだ?と不思議に思うのと同じだろう。

さて台湾マンゴーであるが、この時に台北事務所の人から1個を頂いた。そのマンゴーは、メキシコ産やフィリピン産マンゴーの数倍大きく、色はりんごのような赤である。このことからアップル・マンゴーと呼ばれている。ホテルに帰ってから、そのマンゴーを食べたら非常に美味しく、普段マンゴーを食べない私だがすぐに好きになってしまった。

日本では、宮崎産のアップル・マンゴーが買えるが、1個3,000円もする高価な果物である。しかし台湾では、200~300円である。妻もこのマンゴーが好きで、高崎市の自宅近くの台湾料理店を經由して、毎年6月に一箱10個前後入りのマンゴーを個人輸入していた。一箱1万円なので一個当たり千円位。台北の3~4倍位高いが宮崎産の1/3で、美味しく形の立派なマンゴーを食べることができる。しかし今ではその台湾料理店が閉店してしまい、台湾マンゴーを輸入することが出来なくなってしまったのが残念である。

◆記事 嵯峨良平 (昭和43年電気科卒) 東京秋工会 副幹事長

頑張ろう！東北 フレー！ 秋工！

◆ 総合フードサービス事業 ◆

**テンシャル株式会社**

代表取締役 大塚 廉造 (K・32卒)  
相談役 大塚 洋夫 (E・35卒)

東京都中央区新川12丁目7番7号クレール八重洲ビル204  
TEL(03)3297-1066 FAX(03)3297-1063

www.saito-group.com/

**株式会社 斉藤建設**

〒248-0011 鎌倉市扇が谷4丁目5番8号  
TEL.0467-25-0567(代)  
FAX.0467-23-3972

取締役 北埜 博(昭和44年建築科卒)